

平成28年度 第1回  
東大和市介護保険運営協議会会議録

東大和市福祉部高齢介護課

**○尾崎福祉部参事** 本日はお集まりいただきましてありがとうございます。

定刻になりましたので、本年度第1回目の介護保険運営協議会を始めさせていただきます。

会議に先立ちまして、協議会の定足数について確認させていただきます。

本日の欠席でございますが、委員は欠席の連絡をいただいております。それから委員、委員については、遅参という連絡をいただいております。場合によっては欠席ということでございます。委員については遅参という連絡を受けてございます。

定足数については過半数7人に達しており、会は成立してございますので、本会議を進めさせていただきます。

本日は、28年度の1回目ということで、第7期の介護事業計画の策定に向かう準備調査の関係を議題の中心としてございます。

ご意見等を忌憚なくいただければと考えてございます。

それでは、今後の進行につきましては、委員にお願いします。

**○委員** 皆さん、こんばんは。座らせていただいてよろしいですか。

お久しぶりという感じで、本年度の第1回で、既に第6期の計画も2年目を迎えていますが、この第6期というのはご案内のとおり、以前、25年を見通した上での計画ということで、第7期への調査のご意見を賜りたいと思っております。今回、この6期の中心的な課題である地域包括ケアシステムと新しい総合事業の進捗状況を踏まえた形で、第7期の計画の作業が進められていかれるのかなと思っております。

例年ですけれども、国の作業は非常におくれおくれの中で、皆様方のご意見をいただきながら、また国の情報等も、適時、皆様方に市のからご案内をいただいて、よりよい計画づくりを進めていきたいと思っております。

本日、傍聴をご希望されている方がお見えになっています。委員の皆様方のご了承をいただければ、傍聴を認めたいと思っておりますがいかがでしょうか。

(「異議なし」の声)

**○委員** よろしいですか。

(傍聴者入室)

**○委員** では、最初の議題が、「第2回東大和市地域包括支援センター運営協議会の報告」です。委員、よろしく願いいたします。

**○委員** それでは、ご報告させていただきます。

資料Aをご覧ください。

平成28年3月22日、委員、委員、委員、委員と私、5名の委員で平成27年度第2回目の東大和市地域包括支援センター運営協議会を開催いたしました。

議題につきましては3点ございまして、まず議題(1)平成28年度高齢者ほっと支援セ

ンター事業について、そして、議題（２）予防支援事業所の計画作成委託状況について、そして議題（３）地域密着型サービスの利用状況についてという３点でございました。

順番にご説明してまいります。

まず議題（１）につきましては、事務局より、平成28年度の高齢者ほっと支援センターの事業のうち、主に新しく追加された事業６項目について説明がございました。新規事業の内容につきましては、この議題（１）の中の黒ボツの６つが、新規事業の内容でございます。

これに対して委員からは、高齢者ほっと支援センターの担う役割が大変大きくなっていて、多くの業務をこなさなければならない現状の中で、本来の相談業務や、地域住民の支援などがおろそかにならないような業務的なくくりが必要ではないのかという意見が出ておりました。これに対して市からは、高齢者ほっと支援センターから毎月実績報告を受けているということと、業務連絡会議も毎月１回行っていて、連携はとっている。また、指定管理者である場合には指定管理者のモニタリングを行っているので、確認はできているのとのことご説明でございました。

また、人員配置の増についても、一定の拡充は行っているというご説明でございました。その他の内容及び質疑につきましては、資料のとおりでございます。

続きまして、議題（２）でございますが、事務局より高齢者ほっと支援センターが委託している介護予防計画作成の件数についてご報告がございました。

委託件数は285件から、多い事業所で780件、委託率は３事業所の平均で23%ということでございます。

これにつきまして委員からは、こうした委託率は妥当であるのかという質問が出ましたが、市からは、過去の経緯を見ても適正な範囲内であると考えているというご見解をいただきました。

その他の内容及び質問につきましては、資料のとおりでございます。

そして最後の議題（３）、事務局より地域密着型サービスの指定、利用状況について報告がございました。

東大和市において、地域密着型サービスに指定している事業所の指定・廃止が３カ所あるとのことございまして、その理由につきましては、利用者の転出や死亡及び利用がないなどによるということございまして。

また、平成28年４月から、利用定員が18人以下の小規模な事業所につきましては、これまでの通所介護事業所から地域密着型通所介護事業所に移行される関係で、来年度は12事業所が追加になるということございまして。

委員からは、東大和市内にはグループホームが２カ所あり、この２カ所について市外の方を受け入れているという状況があつて、その要因はどういうことか。その要因について、例えば東大和市民のニーズが少ないのか、あるいは他の福祉サービスに比べて費用が高

くて利用しづらいのか。そういうことを少し検討したらどうかというご意見がありました。

また、事業所としては利用者がいない場合に、経営を考えることは大切だということは理解できるのだが、地域にある資源として、こうした資源を市民の方が有効に利用できるようになるということを確保すべきではないかというご意見をいただきまして、そのとおりということでございます。

その他の内容と質問につきましては、資料のとおりでございます。

議題につきましては以上の3点でございまして、その他連絡事項として、東大和市地域包括支援センターの人員及び運営に関する条例の一部改正と介護保険法及び介護政省令の一部改正による地域密着型通所介護の創設施行の報告がございました。

以上、地域包括支援センター運営協議会のご報告を終わります。

**○委員** 非常に細かいご説明、大変ありがとうございました。

ただいま地域包括の2回目の運営協議会の報告がありましたが、この内容等につきまして委員の皆様方からご質問、ご意見等をいただきたいと思います。

後でまとめて、時間を設けますので、次の議題のほうに移らせていただいでよろしいでしょうか。

次の議題は今回の中心的な議題になりますが、「日常生活圏域ニーズ調査について」ということで、事務局から説明をお願いいたします。

**○事務局小島** この議題の2番目のニーズ調査について、私のほうからご説明させていただきます。座ってご説明させていただきます。資料Bをご覧ください。

まず最初に本年度の運営協議会の日程などにつきましてご説明いたします。

本年度の運営協議会は、本日を含めまして計5回を予定しております。次は8月、10月、11月、2月に予定しております。今年度は、第7期の事業計画策定のためのニーズ調査を実施する形になっているのですが、こちらは、平成29年度に、第7期介護保険事業計画を策定することになっており、準備といたしまして、市民の方から意見を伺って、事業計画に反映するという趣旨で、アンケート調査を行うものでございます。こちらにつきましては、調査の内容につきまして運営協議会でご検討いただきたいと思いますと考えております。

スケジュールの（案）というところをご覧ください。

8月のところに、「東京都による説明会（仮）」というところがありますが、前回、平成25年度については、ニーズ調査について東京都から説明会が開催されており、そこで国の調査票のひな形が示されていました。

今年度につきましては、まだ国からひな形が示されるとか、時期など、説明会が開かれるどうかもまだ未定というところですが、東京都へ確認していますが、3年前と同じスケジュールで今年度も行われると仮定して、今回のスケジュールを作成したところでございます。

8月に、国のひな形が示されるということで、第2回目の運営協議会においては国の調

査票のひな形をお示しできればと考えております。

こちらの調査につきましては、調査委託して調査票を作成する予定ですが、契約時期については、8月中を考えております。

国の動向や、その他の状況によっては、契約時期について前後する可能性もあると思います。

契約後につきましては、今年度の調査票を業者と一緒に作成し、第3回目の運営協議会で東大和市の調査票という形でお示ししたいと思います。

いただいた意見をもとに調査票を修正し、第4回目の運営協議会で最終的な調査票をご確認いただき、調査票を発送したいと考えております。

発送時期につきましては、今のところ11月ぐらいを予定しております。大体1カ月程度の回答期限を設けまして行っていきたくと考えております。

その後につきましては、調査結果を集計し、第5回目の運営協議会でご報告をさせていただく予定です。その後は3月までに報告書を作成いたしまして、委員の皆様へ配付したいと考えております。

2ページ目をご覧ください。

こちらにつきましては、前回、平成25年度に実施いたしました調査結果を簡単にまとめさせていただきました。

資料1から資料4ですが、こちらが実際に前回実施した調査票です。

2ページに戻っていただきまして、1番の「調査対象」というところがございますが、こちらは前回、4種類の調査を実施しております。①の日常生活圏域ニーズ調査ですが、こちらは、国から示された調査票のひな形をもとに作成した調査票でございます。要介護（要支援）の認定を受けている方と、認定を受けていない方の両方に、それぞれお送りしています。後ろについている資料1が、実際に送った調査票になります。

②から④の趣旨ですが、こちらは市で独自に作成しました調査でございます。②の居宅サービス利用・未利用者につきましては、認定を受けている方で、居宅サービスを利用している方、もしくはサービスを利用していない方を対象にした調査でございます。後ろについている資料2がその調査票でございます。

③の施設・居住系サービス利用者につきましては、認定を持っている方で施設等に入所されている方を対象にした調査で、資料3の調査票となっております。

④の一般高齢者（65歳以上）につきましては、介護認定を受けていない方を対象にした調査票で、資料4の調査票となっております。

2番の「回収結果」ですが、こちらは各調査票ごとに回収率をまとめた表でございます。合計で65.3%という回収率となっております。

3番の「アンケートについての自由意見」でございますが、市独自の調査の中で、自由意見を記載する質問がございます。回答があった中で、アンケート全体にかかわる意見に

ついて、抜粋して記載させていただきましたので、参考にしていただければと思います。

説明は以上です。

**○委員** 事務局のほうからニーズ調査も含めて前年度実施したものについて説明を受けました。資料Bに書いてありますように、国でも、前回のニーズ調査、質問項目が多く、高齢者にはなかなか負担が、というようなことが、国の文書の中にも書かれていて、できる限り、簡略化も含めて検討していきたいということが示されています。

ただ、そのひな形が、先ほどのスケジュールの話がありましたように、まだ出されていないということなので、今回は、前回行った調査をベースに、委員の皆様方からご意見をいただければと思っております。

順を追って、資料1の日常生活圏域ニーズ調査からですが、非常に細かいところまでですので、言葉の使い回しなどは前回、委員の皆様方からたくさんのご意見をいただいて、できる限り国のひな形に対して、特に感情を逆なでするようなことを聞くこともないだろうということで、幾つか直させていただいたので、それも含めて何かご意見ありますでしょうか。

回収率が一番高いですね、70.9%。

**○委員** 今回つくる調査票ですが、これはもとにならないですか。また新しいひな形をもとにしてつくるわけですか。

**○事務局小島** そうです。また、今年度、国からひな形が示される予定です。

**○委員** ただ、ベースにはあるのでしょうか。これを簡単にしていく、これだけだとなかなか状態像がわからないとか、圏域ごとの差がつかみ切れないみたいな意見が、国のレベルで出ているらしいです。

**○委員** 前回、この調査で、この結果というのは、どのように活用されたのですか。

**○事務局小島** 報告書という形で、アンケート結果をまとめさせていただきました。

これをもとに、市民の方がどのようなニーズを求めているのかということ把握し、業者へ委託して、このようなニーズがあったのと、それを踏まえた形で第5期の事業計画を作成するという形で作成していきます。

**○委員** そうすると、圏域ごとのニーズというのは、割と明らかになって、その圏域ごとのニーズに対して、計画作成が進んで、それがうまくいっている感じなのでしょうか。

**○委員** ちょうど2年目なのですが、前年度の振り返り、行政でいえば決算の作業に入ってくるわけなので、計画と実際がどうであったかということが、今年度の運協の中で、市からお話があるのか。今の時点で、そんなに細かい数字までは。

**○委員** それを踏まえて、この項目というのは少し精査しないとなかなか考えにくいかなというのは正直あります。

**○委員** おっしゃるとおりだと思います。

**○委員** 6ページの転倒予防についてですので、私、医者をやっていますが、「この1

年間に転んだことがありますか」「はい」「いいえ」ですが、「いいえ」に○する人というのは？「はい」「いいえ」だったら「はい」ばかり多くて「いいえ」はほとんどないのではないかなと思うし、「転倒に対する不安は大きいですか」といったときに「はい」「いいえ」だと、ほとんど「はい」で、「いいえ」はないのではないかなと思います。「この1年間に転んだことがありますか」ということで、「よく転んだことがありますか」とか、「どっちかという」と、そういう頻度的なことを入れてもらったほうが、僕の方からすればいいのではないかなと思います。市の健診のところにも同じような項目があって、同じように書いてあるのですが、転倒予防とか、転倒に対する不安ということに関して「はい」「いいえ」だったら、100人いたら90人以上は「はい」にするとし、「転倒に対する不安は大きいですか」といったら、これは、95%以上は多分、「はい」にして、「いいえ」にする人はほとんどいないのではないかなと感じます。「ここ1年間で転んだことはありますか」というところを、例えば「よく転んだことがありますか」とか、頻度的なことを入れてもらったほうが、こここのところの「はい」「いいえ」の比率がもうちょっとばらけるのではないかなと思います。これだったら、この3番の間1、間2に関しては、「いいえ」に回答する人は1人か2人ではないかなと思います。

**○事務局尾崎参事** お言葉を返すようで恐縮なのですが、集計結果、先ほどの報告書なのですけれども、「この1年間に転んだことがありますか…はい29.8%、いいえ66.0%」、「転倒に対する不安は大きいですか…はい57.7%、いいえ38.0%」、「背中が丸い…はい39.9、いいえ55.8」、「歩く速度が遅くなっているか…はい64.8、いいえ30.1」、「つえを使っていますか…はい24.5、いいえ70.4」。

各圏域ごとの数字を出しており、それなりに、ばらけた結果が出ております。

**○委員** これを読むとどうなのか。きちんと動くのか。高齢の方はみんな「はい」にするのか。僕のところも結構「はい」が多かったもので。

**○委員** おっしゃるとおりだと思いますが、やはり頻度の「たびたび」とか、今回の調査のときは、今のご意見も含めて検討していきたいと思います。

**○委員** 2,250人を対象にしたということが書いてありますが、65歳以上の方は、東大和市は何人ぐらいいらっしゃるのですか。

**○事務局尾崎参事** 約2万2,000人ぐらいです。

**○委員** ありがとうございます。

**○委員** 2万2,000人の中で、認定を受けている方が1,000人ということですね。そうすると一般の受けていない方はこの2万1,000人。

**○事務局牛久保係長** そうです。

**○事務局尾崎参事** 報告書の予備があれば皆さんに配付するべきなのですが、残数が少ないようですので、今度ホームページにアップできるかどうか。

**○事務局小島** データもどうか確認いたします。

○委員 これは確認したいのですけれども、全体のまとめだけで、個別に行ってアプローチしようとか、そういう使い方とはされていないのですか。

○事務局尾崎参事 していません。

○委員 それはしていないのですか。

○事務局尾崎参事 無記名です。

○委員 こちらの独自の物も無記名ですか。

○事務局尾崎参事 はい。

○委員 市町村によって違いますか。

○事務局尾崎参事 やっているところもあります。事前に聞いた段階では、先進市と言われる和光市では、未回収のところをアプローチして、そこに潜在的な問題があるのではないかとこのところもございます。

○委員 この質問事項を省くのは難しいのではないですかね。重要なことしかやっていないですから、基本的には、全部書いてもらうしかなく、いっぱいあるから書こうとしても、書くような報告が余りないような気がします。大変でも書いてもらいたいですね。

○委員 これに基づいて計画をつくるということなので、前回もそんなに大幅な修正は困難ということをご意見をいただいたのですが、恐らく今年度、国が示すひな形等についても、余り大幅に変わるというようなことは難しいのではないのでしょうか。

○委員 7ページの「物忘れについて」なのですが、例えば認知症を持っている方にアンケートを書いてもらうときに、基本的には本人に書いてもらうわけですね。不可能な場合は付き添いの人になると思うのですが、「周りの人から『いつも同じ事を聞く』などの物忘れがあると言われますか」、これは客観的に言われているかどうかは別として、問3の「今日が何月何日かわからない時がありますか」というものは、何月何日かわかっているのだけれども、それが合っているかどうかはまた別問題であり、あくまで認知症を持っている方の自分の意識の中で書いているから、それが正答かどうかはまた別ですね。その辺、結構微妙だなと思って見ていたのですが、それがはっきりデータとして出てきて、それがそのまま使われるのかなど。データとして本当に使っていいものなのかなというのが、調べはないと思うのですが、これはどうなのかと感じました。

○委員 おっしゃるとおりだと思います。例えば認知症がある程度進んでいる方が出ると、それこそ「いいえ」「いいえ」を書いてしまうかもしれない。自信を持って「いいえ」「いいえ」と入れるかもしれないですね。ただ、それを集計のときに、ほかのデータでもつけるものがないので。

○委員 データがないですからね、本当に。集計するときその辺も考慮して、何か扱いはできるといいですね。

認知症の場合は、本人がアンケートに回答したのか、それとも付き添いの人がアンケートを回答したのかという情報は、ここには載らないのですか。



○委員 頭のところに、家族が回答しても構いませんと書いてあります。

○委員 書いてありましたっけ。そのデータが**本人なの**かどうか。

○事務局尾崎参事 それは載らないです。

○委員 では、わからないですね。

○委員 本人か家族かどっちかに、最初に○してもらおうとか、そういうのを入れておけば、またそれは違ってくると思いますが、それが、全部が本人か、一部だけ本人がやって、一部は家族がということだと、迷うことがあるかもしれないですが、本人が書いた、もしくは介護者が書いたと、どっちかに、一番最初に○か×をつけておけば、ある程度は確かにいいかもしれないですね。

○委員 3ページのちょうど一番上のところにあります。

○委員 書いてありますか。

○委員 本人かご家族かということを書いてありますね。

○委員 それだったらいいですね。

○委員 これによってデータの取り方を変えるとかというのを、もしかしたら、したほうがいいのかもわからないですね。

○委員 資料Bの2ページの回収結果を見ると、施設・居住系サービス利用者意見欄も一番少ないのですが、回収率が一番低くて、本人の意向を汲んで書いても構わないと書いてあり、一番介護者がいそうなところなのに、一番回収率が低いのだなという印象を受けました。その割には日常生活圏域ニーズ調査、一番分厚い内容なのに、これは回収率が高いとか、だから、調査票との因果関係がよくわからないのですが、確かにひとり暮らしの方が見て書くには、かなり難しい内容がそろっているとも思います。でも、身近に介護する方がいても意外と返してくれないのだなというところもあり、この辺の回収率をアップする方法を考えるというのは、1つ有効な手段なのかなと思います。

質問なのですが、これは一回出して、提出がないと、出ていませんよという追っかけはするのか、それとも出しっ放しなのかというところなのです。

○事務局小島 無記名ですので、誰から回答あったのかというところまで把握はできませんので、前回、回答がなかった方について連絡はしていません。

○委員 そうですね。結構いろいろな実務をやっていると、いろいろな大学の研究室など、いろいろなところからアンケートに答えてくださいというのが、よく来るのですが、うっかり忘れてしまうと結構、まだ提出していただいていない、なんていうのが来ると、そこで出したりとか、そういうことがあったりするので、催促を出せるシステムなら出せるといいのかなと思います。もちろん時間が許せばということですが。

○委員 多分、個人情報との関係で、誰から来ているかということ、意図的にデータで取らないということなので、督促状も無理という。先ほど和光市の話がありましたが、ひとり暮らしなどで、そのままいっちゃっているというような人を何とかという、アウト

リーチも現場には言われているのですけれども、そういうところにつなげていければ本当は一番いいのでしょうか。

**○委員** ですから、私どもみたいな事業者連絡会だったり、事業者側から、全く誰もが持っていなければ、また話は別ですけれども、事業者が係っているところであれば、「どれが来ていませんか」なんていう呼びかけも多分できると思いますので、しかるべき時期のときに、関係事業者にアナウンスしてもらおうとか、そういうのも1つの手段かなと思います。ケアマネジャーの連絡会は2カ月に1回、定例会でやっていますので、ある程度の時期にアナウンスしていただければ、ある程度協力できるのかなと思いますし、そんなところも回収率を上げる方法かなと思います。

**○委員** そうですね。お話しのように、アンケートのスケジュールと対象者等について、例えばケアマネさんの連絡会議だとか、民生委員協議会とかというところに、前もって関係事業者に協力依頼ができると、回収率が少しでも上がるかもしれないです。

**○事務局牛久保係長** 前回の記録はそこまで残っていないのでわからないのですが、今回はそういったところを活用させていただこうと思います。

貴重なご意見、ありがとうございます。

**○委員** 教えていただきたいのですが、このアンケート調査の用紙ですけれども、これは郵送されるのですか。それとも調査員が行くのですか。

**○事務局尾崎参事** 郵送です。

**○委員** わかりました。

**○委員** 回収率が出ていますけれども、その分だけ、有効回答というか、例えばどうしても抜けちゃっているようなところ、質問によっては答えにくいところがあって、そういうのも少し、そこは答えにくいところなので、少し答えやすく考えると、この回収率の中でどれくらい有効回答率があって、そういうことも教えていただくと参考になると思います。

**○事務局牛久保係長** 前回のところで、無回答というのを質問ごとに回答率が低いのはなぜだろうなど。

**○事務局尾崎参事** すごい無回答率がありました。高齢者福祉サービスの利用で、元気ゆうゆう体操の一般高齢者、3.4%とか、さわやかサービスが0.2%、声かけ活動が0.7%、無回答が94%という結果がでています。

**○委員** その他無回答のところは、何かわからないわけですから。

**○事務局尾崎参事** 活動していない、利用していないというふうになります。

**○委員** その活動がいきいきとかは、こういう活動ですよとか、読むかどうかは別として、こういうことをやっていますよとか、そういうものを、別冊でもいいですからあればいいのかと思います。

読むかどうかは別として入れてあげて、それはこういうことですよ、どうですかという

ような方向に持っていくのはどうなのでしょう。

**○事務局尾崎参事** PRというかアナウンスというか。そういうことですよ。可能です。ここは個人情報とも絡みませんし。ダイレクトメールみたいになっちゃうところもありますが。

**○委員** こういうのをやっています。参加どうですかと言ってあげると、PRにもなるし、行こうかなという気になるかもしれない。

**○事務局尾崎参事** 恐らくこれだけ見ても、サービスのイメージはつかめないでしょう。

**○委員** そうですね。ちょっと飛んじゃいますが、資料4は、わからない人にはわからないというものなので、お話しのように、せっかくの機会なので、例えば高齢者ほっと支援センターというのはこんなところだと、書かれていますが、少しこまめに宣伝してもいいのではないのでしょうか。

次回、国の示したものを予定していますので、市独自調査の資料2、3、4も含めて、全体的なところでご意見をいただきたいと思います。

**○事務局尾崎参事** 今回は全体的なイメージを少しつかんでいただければというところ です。

**○委員** この対象者数というのは、大体、前回と同じぐらいの対象者数になるのですか。

**○事務局尾崎参事** そうです。予算的な話をして恐縮なのですが、大体、前回並みの予算措置をしてあります。

**○事務局小島** 一般のほうは1,200人ぐらいを予定です。

**○委員** 3番は、特に低いというのはいかほど意味があるのでしょうか。対象者がすごく少ないのは、2の回収結果で、対象者数が193人で極端に低いので、これは何か特別な意味があるのか、それともそういうわけではないのですか。

**○事務局小島** 対象となっている方が、大体、500人くらいしかいなかったの、全体的な数が少ないということです。

**○委員** こういうふうになっているのですね。

どうもありがとうございます。

**○委員** サービスを使っている人なので、回収率が高くてもいいのかなと思ったりします。

**○事務局尾崎参事** アンケートの実施結果、Bの2ページの一番最後、施設・居住系サービス利用者の自由意見の中に「施設の職員が記入しています。この様なアンケートは特別養護老人ホームの入所者には少し、無理があるかと思えます」という意見があります。施設に入っている人はなかなか難しいのかなという意見です。その辺がやはり数字にも出ているのかなと思えます。今、施設入所者の、介護度はどれくらいですか？平均だと、4に近いくらいですかね。

**○武木委員** 近いくらいですね。

**○事務局尾崎参事** 4に近いです。

**○委員** 結局、施設の利用者からの、回答数が少ないというのは、介護サービスを受けているという立ち位置なので、結局、アンケートというのは、自分で情報を発信して、要望をアンケートに載せてという方が、回答するものだと思っているのかなと思います。やはりこの中で回答数が2番目なのですが、一般高齢者、要は認定を受けていなくて比較的自立されていて、自分で情報を発信できるとか、自分で意見を要望できるというような人がやはりこのアンケートの結果の答えになってしまっただけではないかと思っています。

先ほどもアウトリーチというような形でありましたけれども、一番自分の意見が言えない状況にある人というのが、一番このようなサービスを求める、必要とされている人なので、やはりそういうのは上澄みの意見でなく、本当におりになっているところを、どこまで拾い上げるかというところが必要なのかなと思います。そういう取り組みというのを次回続けて組み立てられればと思います。

**○委員** ありがとうございます。

**○委員** 今回、グループホームとか、少人数と、市でおっしゃっていたのは、アンケートとしては、3番のところに入ってくるのですか。

**○事務局尾崎参事** そうですね。グループホームは施設系ですね。

**○委員** 少人数の認知症型とか、そういうのもやはり3番に入ってくるのですか。

**○委員** サービス系利用者の中から無作為抽出で前回行っていますので、例えば特別養護老人ホームとか一定の長期入院介護保険施設については、別な形というご意見は、可能でしょうか、あえて全部外しちゃうというのもありかと思っています。

特別養護老人ホームなどは、要介護4の方が中心ですと、お話しのようになかなかご本人からこれにお答えいただくというのは無理ですし、施設のほうも、何もしないよりは、ご本人にかかわって、協力をいただいているのですが、かえってそこをしないということだと、回収率が低くなるという、こんな回答できる状態ではないという。何割かの方が幾らかでも一つ一つ聞いたとしても、全く無理な方が結構いらっしゃると思います。

**○委員** 例えばこれは施設系だと、要介護5までやっているのですが、そこまでは含めないということはできるのですか。そうでないと、例えば施設に対して満足していますとか、そういうことは答えられないでしょうし、施設の方が答えたにしても、やや不満とか不満なんて記入するはずないと思います。

適当なところで、満足だと、ご本人そう思っているのではないかなというところで記入していただいているのではないかと思うのですが、要介護5まで含めて、制度上あるので仕方がないのですが、ちょっと厳しいなというふうに思います。

それとも、介護度が低い人をちょっと多くして、重い人は少なくするというか、人数的に、そういうことができるかどうかですね。

**○事務局尾崎参事** 回答が84になっているのですけれども、実は、要介護5の回答率が

28.6、要介護4が29,8、3が16.7、2が16.7、1が3.6、逆に言うと、多分、施設の方が書いているのですね。だから介護1で、有料老人ホームが14、認知症グループホームが2、特養が44、老健が19、療養型の医療が3なのです。介護度が重いほど回収率がいいというのは、明らかに施設の方の記入です。

**○委員** 設問によっては、その答えがすごく客観的な答えであったり、逆に施設にとっていいような答えであったり、やはり設問によって差は出てきますよね。ですから、もしかしたら、記入する方によって設問を変えるべきか、2種類用意するというか、ですから本人が答える場合、ここからここまで答えてください。そうではなくて、介護する方が答える場合、ここからここまで答えてくださいみたいな設定もありなのかなと思います。

**○委員** これは市の独自の調査ですので、市が変更することは全く問題ないと思います。前回の抽出の仕方は、サービスを利用している人からまず引っ張ってきて、その次に、今どこにいますかと聞いているのです。場合によっては、特養に既に入所している人の何割とかで要介護度とかというのは、予算の面もあるでしょうけれども、ご意見をいただいたわけなので、事務局のほうでも考えていただければと思います。

**○委員** あとは、今の話を伺うと、特養ですと、住所を移していますので、必ず特別養護老人ホームに届きますが、老健とか、その他のサービスの人はどこに送られているかというのが想像できないのです。例えば、東大和市の老健なのですが、他県から入所という可能性もあるわけです。届くのはそちらに届いちゃうとか、それが回収日までに書けないとか、極端ですけどもそういった例もあるのかなと思います。

**○委員** そういう細かいところまでいろいろ区別しようと思うと、多分、不可能に近くなるので、逆に言うと、もっと大ざっぱにしたほうがいいデータが出る可能性もありますよね。それにはやはり数を増やさないと、大ざっぱなデータは出てこないですよ。

**○事務局尾崎参事** そこら辺ってわかりますか。

**○事務局小島** 恐らく本当の無作為で行っています。

**○事務局尾崎参事** 特養とかは特に選んでいないということですか。

**○事務局小島** そうですね。

**○委員** 施設系は、被保険者の方の住所と居住の住所が異なる場合もあると思います。

**○事務局牛久保係長** 恐らく市の数値は、こっちの住所に出してという状況で出しているのだとは思いますが、そちらのほうにいつているのだとは思いますが。ポストを見たらこういうのが入っていたのですが、期限が切れちゃったので、もういいやというのも当然あったのではないかと思います。

**○委員** すみません、遅れて来て申しわけございません。

ちょっとお伺いしたいのは、このアンケートで、特に認知症の人、グループホームに入られている人なんかもそうなのですが、いわゆる本人が認知症状態にある人に対して、恐らく職員のほう、もしくはご家族とかで聞くというような作業をすると思うのです。

けれども、その設問の中で、そうだろうなというような、いわゆる聞く側の感じ方で、このアンケートをつくるというような発想になるという解釈でいいのですか。

**○委員** 受け取った側はそういうふうな形で、どなたが記入されますかというところから始まるから。

**○委員** となると、さぐりながらの感覚での、本人がちゃんと答えられる、そう答えたことが正しいかどうか、本人がよくわからないような状態もあり得るところでは、それはやむなしというような感じで記入するのか、というところもちょっと。

そうするとその信憑性的なものだったりとか、本当にその人がそこまで望んでいるのか。そう望んでいるのかどうかということまでは、やはり読み取れないところがどうしても出てきてしまうのだろうなというのが、皆さんのお話を聞いていて、感じたところではあるのですが、ある意味、小川先生が言われたように、職員もしくはご家族が書くのであれば、どこからどこまではちゃんと答えてくださいねという方法論は、もちろん必要だと思いますが、ただ、認知症の人に聞くときに、本当にどこまでが事実なのかというところは、アンケートとしては微妙なラインになるなというのを感じました。

**○委員** おっしゃるとおりだと思います。特に、資料3の中に、満足できたものが、ほとんど出ていたので、多分ご本人がというのはなく、施設職員が記入しているのかなと思います

**○事務局尾崎参事** すごく確率が高いですね。職員の態度対応というのが、80%「いい」と答えている。職員の対応、個人的な要望を聞いてくれる。ほとんど満足度は高いですね。

**○委員** 原則的には施設に対して満足しておられる方もいるのですか。

**○事務局尾崎参事** そうですよ。入っているわけですから。

**○委員** そこで相当嫌なら、勝手にしろとなるわけですから、ほとんどの人は満足していると思います。というのは、ご家族とか、そういう方もわかるので、そういうことがあるのですか。

**○委員** アンケートの調査実施結果なのですが、2ページのアンケートについての自由意見というのがここに書いてあるのですが、市の同時調査で、こんな自由意見を取り入れるというか、参考にした調査というのは入れていくのでしょうか。

例えばアンケートについての自由意見で、ポツ2の「介護している人の為の家族の要望に答えるアンケートがあれば」というような、このような意見が出ているのですが、このような考え方、何かありますか。

**○事務局尾崎参事** 介護者に、ということですね。

**○委員** そうです。

**○事務局尾崎参事** 介護者に設問あったかな。

**○事務局小島** ないです。

○委員 国の、市町村に対するペーパーの中には、介護辞職ゼロというのが、国の大きな方針としてなされています。その中でご家族の状況を調査できないかというようなことが検討されているみたいです。例えば息子さんが働きながら介護しているとか、それで離職せざるを得ないとかというようなことが、一部。第7期に反映させるようなことも検討しているようです。そうすると、場合によってはご家族の状況というのですか。

○委員 そんなことが確実に出てくれば、いいと思うのですけれども。

○事務局尾崎参事 直接的な設問はなかったと思います。

介護者の質問で家族介護者という質問が出たのですが、それを調べたときに、家族介護している人の奥さんや子供、別居や同居という設問はたしかありました。その方の気持ちを聞いた内容は多分なかったというように記憶しています。

そういう意味では家族介護とかケアサポートだとかという視点は、この当時はなかったようです。

ただ、今、先生がおっしゃったように、第7期の中では、そういう視点も盛り込みなさいというところが重要であるという、盛り込みなさいまでは言っていないのですが。その視点は考えなければいけないのではないかと思います。

○委員 そうですね。ぜひお願いしたいと思います。

○事務局尾崎参事 ケアとかですね。

○委員 例えばいろいろな設問があって、この設問は本人が答えたほうが、一番正確なデータがとれるなどかというのは、それぞれあると思うのです。これは本人が答えてもどうしようもないな。やはり脇にいる家族が答えたほうが、ずっと正確なデータがとれる。設問によってそれが、対象を変えることで回答の信憑性を上げるという方法もあるかもしれないですね。結構3つとか4つに分けて、もちろんその方がいない時は、それは書かなくていいので、そうすると本人が85歳以上とか答えるのが難しいなんて書いてありますけれども、本人の負担がすごく減るのではないかなと思うのです。

ただ、その扱いが難しくなるかもしれませんが、初めに冒頭にそれをきちんと説明して、ここからここはと説明できれば良いですね

○委員 対象者もいて、その対象者となる人がすごく高齢であっても元気な人は沢山いるのです。そういうことも結構あるので、なかなか一律には、これはこう、これはこうというのは難しいのかなと思います。

○委員 それ以外に何か、この資料Bの冒頭のところに書いてあるのですけれども、簡略化を考えているらしいのですが「要介護度の悪化につながるリスクの発生状況」とか、そういうことも把握したいと書いてありますが。

○委員 無記名ですから、なかなか難しいですね。

○事務局尾崎参事 「要介護度の悪化に影響を与える日常生活の状況」、運動しないとか、そういうことなのですかね。介護予防とか、健康増進とか、そういう視点がない日常

生活ということですか。

**○委員** まさに無記名だと、この後のフォローができないです。誰が何を書いたかわからないですから、記名していればフォローができますけれども、無記名だとこれはこれでおしまいということになってしまって、なかなか記名にするかどうかということが大前提になります。そうすると、無記名にしないとなると、今度、回答率が下がったりします。要するに名前を書いて、その後フォローするか。そこら辺は難しい話だなということだと思います。無記名だと、その後、今、言ったように、フォローが大変、誰が書いたかわからないですから、できないですから、なかなかそこら辺難しいですね。

**○事務局尾崎参事** 今、機能チェックリストというのを65歳の方は全員送っていますので、それは当然記名式なので、返ってこない人には電話をしたりというところがあります。

今回のアンケートで記名までして、アウトリーチまでして、となると、またそれはそれで、アウトリーチ調査というところの視点とは、また別の視点でのアプローチになると思います。どこまでやるのかというところはあると思います。

ありがとうございます。

**○委員** 今日、このアンケートにつきまして、いろいろご意見をいただいて、ちょっとイメージ的なものが出されたのかなと思います。

来て早速なのですけれども、前回アンケートの調査で、いろいろご意見をいただきましたね。それでまだ国がきちんとしたものを示していないので、今回のところは前回やった調査をベースに、ご質問とかご意見をいただいているのです。

**○事務局尾崎参事** そういうイメージができればというところですよ。

**○委員** 今日の所は先ほどもお話しがありましたように、国がまだ具体的な事を示していないということで、今日は前回のニーズ調査についてご意見ご質問いただいたことを踏まえて、国が示したものについて次回の運営協議会で改めて委員の皆様からご意見を頂戴するというところでよろしいでしょうか。本日貴重なご意見を頂きましたので、事務局の方でもできる限りそれを反映する形でご検討いただければと思います。

議題2の方はよろしいですか。では最後にその他ということで、事務局からお願いしよう。

**○事務局小島** 次回の運営協議会の日程について決めさせていただきます。8月2日火曜日午後7時からということで決めさせていただきましたがいかがでしょうか。

**○事務局尾崎参事** 内容は国のひな型が出なければ、市の独自調査という内容で進めさせていただきます。国がいつ出してくるかわからないので、8月2日はその時点での国の動向で内容を決めさせていただきます。

**○事務局小島** 場所は会議等2回第7・8会議室で行います。

**○委員** 以上をもちまして、第1回の介護保険運営協議会を終わらせていただきます。今日はどうもありがとうございました。